

強化・倍強度ガラス製品

強化・倍強度ガラス共通

タフライト、スクールタフライト、スクールタフライトアクティブ、HS200、セラシルエ、ミストペンスーパー

●設計・施工上のご注意

- ご採用にあたっては、耐風圧強度などをご検討のうえ、ガラス品種・呼び厚さ・面積を決定してください。
- 製造後は切断、穴あけ、面取りなどの加工ができませんので、寸法および形状は正確にご注文ください。切り欠きや、穴あけを施したHS 200は外装には使用できません。
- 製造時、熱処理をしていますので、熱処理をしていない一般の板ガラスに比べ、反射映像が乱れますのでご了承ください。
- 熱処理を施していますので、熱処理をしていないガラスに比べて、透過光の若干のムラが観察される場合がありますので、ご了承ください(薄い汚れが付着しているように見えます)。特に熱線反射ガラス、高性能熱線反射ガラスの場合や、背景に建物等がなく空が見える場合などに、ムラがより強調されて見えやすくなります。また、熱処理時に用いる搬送ロールの表面の凹凸が転写され、ロールの跡が残る場合もありますが、熱処理特有の現象ですので、ご了承ください。
- 生産上の部分的な温度差の影響で、筋状、または斑状に模様が見える場合があります。
- 硬いものなどの衝撃により深いキズがつくと破損することがあります。その場合すぐには割れずある程度の時間の経過後に破損することがあります。
- 万一の破損による落下事故を考慮し、垂直使用の場合、呼び厚さ5ミリ以下の強化ガラスは地上または床面からの高さ16m以下、6ミリ以上の強化ガラスは高さ3m以下でご使用ください。これを超える高さに強化ガラスを使用する場合は、万一の破損時に有効な強化合わせガラスのご採用をお奨めいたします。飛散防止フィルムの場合は、脱落防止上、適切な貼り付けおよび貼り替え方法など注意が必要となりますので、フィルムメーカーにご確認ください。
- 強化ガラスは、万一の破損時には全面破砕し、脱落することがありますので、ベランダの腰板、トップライトなど、破損時に脱落が許されない場所でのご使用は避けください。
- エッジまたはコーナー部分に硬いものなどを当てると破損することがありますのでご注意ください。
- 万一の落下防止措置に関しては、P.10「強化ガラスを安全にお使いいただくために」にしたがってご使用ください。
- 100℃以上の高温に繰り返し、または継続的にさらされる用途へのご使用は避けください。

●使用・メンテナンス上のご注意

- フロート板ガラスと比べて表面硬度が若干低いため、クリーニングの際、金属スキージーはキズの原因になりますので、ご使用は避けください。また、スキージーを使用する場合は、裏面の金具がガラス面に当たらないようご注意ください。

個別

セラシルエ

●設計・施工上のご注意

- セラシルエを製造する場合、デザイン、色に対応したスクリーン版、インクが必要です。スクリーン版、インクの詳細(対応可否、費用、納期等)については、ご注文前に必ず弊社までご相談ください。
- 新たにスクリーン版、インクを準備する場合、標準で3~4週間程度必要ですので、余裕をもった納期を設定ください。
- 屋外用途に使用の場合、印刷面は室内側にしてご使用ください(印刷面を室外側にした使用は出来ません)。
- ガラス両面への印刷は出来ません(片面印刷のみ可)。
- ブレン仕様を透過光でご使用の場合、色により印刷ムラが目立つ場合があります。事前にサンプルにてご確認ください。
- 一部の色については、インクの特性上、製造出来ない色がありますので、事前にご確認願います。

●使用・メンテナンス上のご注意

- 塗装面の汚れが落ちにくい場合は、中性洗剤を使用し、その後、水で洗い流してください。砥粒を含んだ洗剤や酸性、アルカリ性の洗剤のご使用は避けください。

合わせガラス製品

合わせガラス共通

セキュオ、ラミペーン、カラーラミペーン、スクールラミペーン、ラミクール、ブライビュー、ソノグラス、オプティビュー、ラミペーンシェルター

●設計・施工上のご注意

- ご採用にあたっては、耐風圧強度、熱割れなどをご検討のうえ、ガラス品種・呼び厚さ・面積を決定してください。特に、熱割れの発生しやすい条件での使用に関しては、十分に検討する必要があります。
- 製造後の切断・加工ができませんので、寸法・形状は正確にご注文ください。
- 中間膜の性能上、70℃を超える場所で長時間使用しますと発泡することがありますので使用は避けてください。
- ガラス構成・形状によりガラス周辺部に泡が生じることがありますので、事前にご了承ください。
- 中間膜は長時間水に接していると吸湿して白くなることがありますので、水の浸入しにくいシーリング材による工法で施工してください。
- 屋外でのエッジ露出施工等、水や紫外線の影響を受けやすい環境下では有機材である中間膜の劣化が進み、微細な剥離が生じる場合があります。ガラス破損時にエッジ部のガラス片が落下するおそれがあります。エッジ保護(中間膜、ガラスエッジ、破片落下防止)のため、エッジプロテクターの取り付けをお奨めします。ガラスどうしの突き合わせ施工の場合、シーリング材と中間膜が接触する場合は、相互の相性によって剥離・泡の原因となります。
- シーリング材などの欠陥部からサッシ内に雨水が入っても、すみやかに水が抜けるように5mmφ以上(推奨8mmφ)の水抜き穴を3カ所以上設けてください。
- 中間膜は有機系の溶剤に侵されますので施工時にはエッジ部にご注意ください。
- 日射吸収率の高いガラスや網入・線入板ガラスで構成する場合は使用条件によっては熱割れを生じることがありますので、事前にご検討ください。

●使用・メンテナンス上のご注意

- 冷暖房の吹出し空気をガラス面に直接当てたり、ガラスに密着するようなロッカーやパーティションの設置は熱割れの原因になります。
- ガラスの表面にフィルムや紙などを貼ったり、塗料を塗ると熱割れすることがありますので避けください。
※フィルムの取り扱いについてはフィルムメーカーへお問い合わせください。
- 室内側ガラスの近くにダンボール箱等、物を置くことは避けください。一時的な仮置きの場合でも熱割れが生じることがあります。